



1月4日、市役所の年頭の式での
栗市長

ごあいさつ

平成28年1月5日

新年あけましておめでとうございます。三が日は天候がいつになく穏やかで温かい日差しが差し込み、春を思わせるようでした。

今年、野々市市は市制施行5周年を迎えます。市制施行と同時に策定した第一次総合計画も中間地点となります。総合計画の基本となる3つの考えである「公共の経営」「野々市ブランドの確立」、そしてそのもととなる「市民協働のまちづくり」は、とりわけ市民の皆さんのご協力を得たこともあり、その成果がいろいろなところで芽生えてきているように思います。

昨年は地方創生に向けて「ののいち創生総合戦略」の策定をいたしました。地方創生というのは、「まち・ひと・しごと」といわれていますようにこれからも持続的に野々市という「まち」が発展していくときには、「ひと」がしっかり生活できる環境を整える「しごと」が大事です。県においては本社機能を県内に移転する場合、不動産取得税や法人事業税を軽減する条例を制定したのを受け、野々市市でも固定資産税、都市計画税の軽減措置を設け、積極的に企業誘致の支援を行います。また、市内にある金沢工業大学や石川県立大学と連携しながら、新しい産業や仕事を創りあげ、その後押しができるような制度を策定していきたいと思っております。

「公共の経営」というと、何か堅いイメージを受けられるかもしれません。野々市市を経営していくには、行政側は当然のことながら、市民の皆さんも一緒にまちを創っていきましょう、というのが基本です。民間の経営手法や、経営感覚を取り入れて、現場第一主義、どうすれば満足度の高いものにできるかということを考えて経営していくことです。日ごろから職員にもそのような思いで取り組むよう伝えておりますが、市民の皆さんにも一緒にまちを経営している感覚を持っていただくことも大切ではないかと思っております。

干支で言いますと今年は申年です。「申す」という字です。そこに人偏をつけると「伸」、伸びるという字になります。市民の皆さんや職員、野々市「人」が、いろいろなことに「もの申して」いただき、議論を重ね、これからの野々市のことを考え、取り組んでいただければ、さらに野々市が「伸びていく」と感じています。

今年も明るく元気に伸び行く野々市のために、さらなるご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。